

重大な事故防止に向けた安全対策 【 15 ダンス 】

1 競技特性

ダンスは、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、独自の表現や踊りを高めて交流や発表をする。ダンスのジャンルは多様であり、それぞれの特徴を生かして作品を創り踊ったり鑑賞したりする。創作ダンスでは表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、群や個で、対極の動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊る。現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊る。

ダンスは他の種目と違い、他者とのぶつかり合いやボールなどを扱ったりすることは稀である。しかし回転や跳躍などの特殊な動きを連続したり、本番と練習の環境が全く違うという特徴がある。しかも本番は、事前に舞台上での十分な練習時間が取れていないことが多いため、慣れない舞台上での事故についても予め考慮しておかなければならない。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として施設・設備・用具が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 大地震によって舞台天井の照明器具が落下する。 舞台上のセリの段差に足の指が引っかかる。 舞台板のささくれが体に刺さる。引っかかる。 舞台板で滑って転ぶ 大地震時の避難で出口に人が集中し将棋倒しになる 一般来場者の中に不審者が入り事件を起こす。 不審物が仕掛けられ爆発する。 ピンの紛失、衣装の落下、小道具の破損 	<ul style="list-style-type: none"> 頭蓋骨陥没、骨折、打撲 骨折、捻挫 切り傷、擦過傷、火傷、腹部損傷・貫通 尾てい骨骨折・打撲、脳震盪、頭部挫傷、頸椎損傷、 圧迫死、骨折、打撲、捻挫 切り傷、打撲、他 死亡、重傷 切り傷、転倒、他 	<ul style="list-style-type: none"> 大地震がきたら、演技をやめさせ舞台上から移動させる。 溝にカバー用テープを貼る。 なるべく靴を履かせる。リノリウムを敷いて床をカバーする。 滑ることを自覚させて無理をさせない。濡れ雑巾等を置いて濡らしながら活動する。リノリウムを敷いて滑らないようにする。 避難経路を事前に知らせ、落ち着いて行動するようアナウンスをする。 受付で関係者であることを記帳(名前・関係学校名・生徒名・関係)していただき確認。入口をビデオ撮影する。撮影については顧問会議を通じて案内する。 事前にゴミ箱の封鎖をする。巡回中に不審物がないか確認する。 ピン、衣装、小道具を使用する時は、落下しないように十分注意する。

(2) 主として活動内容が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none"> 早くて低い重心の動きで足首を捻る。 高い位置からのジャンプや飛び降りから足を痛める ダンス系の動きで首を痛める リフト系動作時の失敗による事故 踊っていてぶつかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 捻挫、骨折 捻挫、骨折、打撲、頭部挫傷、頸椎損傷 軽い頸椎捻挫 捻挫、骨折、打撲、頭部挫傷、頸椎損傷 打撲、捻挫、擦過傷 	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動をしっかりとやらせる。適度に休憩を入れて集中力を持たせる。 リハーサルにて動きを確認し危険な状態が確認されたら実施をさせないようにする。 入念なウォーミングアップを怠らない。 どんなに容易なリフトであっても、決して油断しないこと。リフト系動作は練習を十分にさせ、補助できる人が必ず近くにいるように指導する。 お互いに踊る空間を作る。踊る前に周囲を確認させる。

(3)主として環境条件等が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの状況(事例)	傷害例(重傷以上・軽傷)	予防策
<ul style="list-style-type: none">・ 高温・多湿の中で活動する。・ 台風・竜巻・大雨等による交通困難 ・ Jアラート発令時の対応	<ul style="list-style-type: none">・ 熱中症・ 帰宅困難	<ul style="list-style-type: none">・ なるべく、空調の効く会場を使う。休憩をこまめに取り、水分補給を行わせる。・ 天気予報を確認し危険な場合は延期や中止にする。実施していた場合は中止や順延などとし、帰宅の準備をさせる。帰宅困難な場合は、天候、交通網の回復を待つよう指示する。・ 発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に参加者等に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。

参考文献

高等学校学習指導要領

日本スポーツ振興会 学校安全web

安全確認チェックリスト

【 15 ダンス 】

競技会名	
期 日	令和 年 月 日 ()
会 場	
記載者名	

区分	確認項目	✓
施設・設備・用具	リノリウム無しの場合	
	舞台上、セリの段差をカバーするようテープを貼る。	
	舞台上、板のささくれがないか確認する。	
	舞台上、滑るような場所がないか確認する。	
	リノリウム有りの場合	
	リノリウムの段差がないように丁寧な設置を行う。	
	リノリウム間のテープ縫がないか確認する。	
	リノリウムに関係ない事項	
	舞台上部の照明に不具合がないか確認する。	
	舞台袖幕に不具合がないか確認する。	
	舞台上で生徒が裸足で活動するかどうか確認し、注意を促す。	
	舞台上で滑るような動きが無いか確認し、注意を促す。	
	舞台裏通路に障害物等がないかどうか確認する。	
	館内に不審物がないか確認する。	
	ゴミ箱を封鎖し、不審物対策をする。	
	大道具・小道具に危険が無いか確認する。危険性がある場合は使用を禁止する。	
	会場図を示し大地震・緊急避難時のマニュアルを配布、冷静な対応を促す。	
不審者対策として、入口で来場者をビデオ撮影する。		
不審者対策として、関係者だけを入場許可にし、受付では記帳をお願いする。		
活動内容	大会前の顧問会議(約1週間前)にて避難経路・危機管理について伝達する。	
	大会前の顧問会議(約1週間前)にて各校に救急用品を持参してもらう。	
	開場後直ぐに全体説明を行い、準備体操を十分に行うよう促す。	
	リハーサル室の使用時間に十分なウォーミングアップをするようにさせる。	
	リハーサルで動きを確認し、練習の十分でない大技は実施させないようにする。	
	開会式で来場者全員に避難についての対応を伝え、冷静な行動をお願いする。	
	会場を定期的に確認して回り、不審物や危険な行動がないよう確認する。	
	傷病が生じた場合は適切な応急処置を行う。	
	事前に近隣の病院を確認しておく。	
	傷病に緊急搬送が必要な場合は病院への連絡・搬送を行う。	
救急搬送が必要な場合は救急隊へ要請をする。		
環境条件等	気温・湿度に応じて冷暖房を入れる。	
	天気予報を確認し、台風・大雨等の予報があれば実施の延期・中止を考える。	
	大地震の場合は館内の安全な場所(舞台以外)に避難誘導させる。	
	Jアラート発令時は館内中央に避難させる。	
	避難が生じた場合は、落ち着いた時点で各校で点呼確認をする。	
発令アラート対応	主催者や指導者がJアラート発令時の対応を確認し、参加者等に周知しているか	
	Jアラート発令時は館内中央に避難させる。	
	顧問不在時など想定される様々な場面での避難方法を、生徒等に指導しているか	
	情報の収集や保護者への連絡方法を確認し、名簿等を準備しているか	

反省・報告(事故、ヒヤリ・ハット含む)